

古代人は意外と肉食系だった!? 下原(したばる)洞穴遺跡

およそ**6,000**年前の出土品が見つまっている下原洞穴は、西阿木名集落の西、下原にあります。集落より60mくらい低く、標高は90mほど。鍾乳洞の天井が崩れ落ちてできた、ドリーネと呼ばれるくぼ地の壁に、ぽっかりと開いた洞窟が、今回の遺跡です。40mほどの発掘調査で、3,300~3,800年前の遺骨や土器、貝などが埋まっていた、さらに下の地層から、石の矢じりや失敗作?が**3,600**点あまり見つかりました! 加えて、それらを作るためのハンマー、ドリル、砥石など、工具の石器もひとつおとり出土しているのです。ほか、当時の食に関わる遺物も、たくさん出土しました。

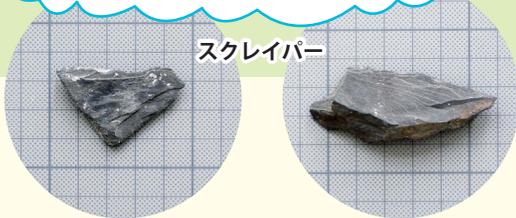


石器の歴史は長く、200 万年以上前からあるんだよ! 研ぐようになったのは4 万年以上まえのこと。この矢じりくらいなら、慣れると3 時間くらいで完成する...かな?

海岸にある粘板岩を割って小さくする → 割って薄い素材を作り家に持ち帰る → 更に割ったり削ったりしながら形を整える → 鋭く研いで穴を開ける



捕ってきた獣の皮を剥いだり、切ったりするには、スクレイパーと呼ばれるカミソリや包丁のような石器を使うんだ!



石のハンマー



石の鑿(のみ)



研石/やすり



石のドリル
(木の柄の先に固定して用いた)



当時は、地面に掘った穴に石を敷き詰めたアースオーブンで、食材を蒸焼きにして食べていたと考えられています。現在でも、大量の食材を加熱するには、最も効率の良い調理法といわれています。



現在のカワニナはずいぶん小さい



ヤマタニシ類はふたがあります!

なんと、下原洞穴からは、魚の骨は見つかっていません! 海産のカサガイやカニのはさみなどが出土していますが、意外にもカワニナとカタツムリの一種、オオシヤマタニシが多い。



顎の骨

明治28年編の徳之島事情には、アマミノクロウサギは山奥に生息し、狩りが難しく稀にしか捕獲されないと記されているものの、下原洞穴からはしっかり骨が出土しています。黒くなった顎の骨は、焼け焦げたもの。

リュウキュウイノシシの狩りは危険を伴っていましたが、ご馳走だったのでしょ。骨を割って、髓(ずい)まで食べていたようです。試しに、月桃の葉につんで蒸し焼きにしたら、香ばしく仕上がりました!

いつも肉や貝ばかり食べていたわけではなく、エビヅル、ヤマモモ、ホウロクイチゴやシマダマ、シマサルナシ、シャリンバイ、モクダチバナ、スダジイ、アマミアラカシの実や、ヤム芋の一種キールヤマノイモ、テッポウユリの根、アマクサギやボタンボウフウなどの葉など、およそ食べられるものは、何でも食べていたのでしょう。現代の食事よりも、栄養バランスが良かった...かも?

もっと情報が見られる電子版はこちら

